



## 岩手県パーソナル・サポート・サービス事業報告会実施報告書

平成 24 年 11 月 21 日  
これからの暮らし仕事支援室

### I 目的

- (1) 内閣府のモデル事業として一年半を経過したうえで岩手県の事業の到達点としての報告をする。
- (2) 開催活動を通して県内民間地域資源との連携や生活支援、就労支援窓口の連携の強化を図る。
- (3) パーソナル・サポート・サービス手法による生活困窮者の支援手法を県民に周知を図る。
- (4) 被災地支援の実態報告や生活保護の事例を通して今後の支援の展開について情報発信をする。
  - ・ パーソナル・サポート・サービス事業を県内関係機関へ周知をする。
  - ・ モデル事業の報告として、全国の PS 事業所にも参加を呼び掛ける。

### II 主催、後援

主催 岩手県、これからの暮らし仕事支援室、いわて県南パーソナル・サポートセンター  
後援 盛岡市、奥州市、暮らしのサポーターズ(宮古あすからの暮らし相談室の委託先)

### III 日程

平成 24 年 10 月 5 日(金)

第一部

メインテーマ

「東日本大震災への対応および生活保護をめぐる取り組みを中心として」

サブテーマ

「岩手における伴走型支援の報告とこれからのパーソナル・サポート・サービスのかたち」

開会のことば…石橋 乙秀 (いわて生活者サポートセンター理事長) 13 時 00 分～

挨拶 …高橋 宏弥 (岩手県商工労働観光部雇用対策・労働室特命参事兼雇用対策課長)

講演 1 …吉田 拓野様 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害保健福祉課 課長補佐)  
「社会的包摂とパーソナル・サポート・サービスとは」 13 時 15 分～

講演 2 …勝部麗子 様 (豊中市社会福祉協議会 事務局次長兼地域福祉課長)  
「豊中社協のパーソナル・サポート・サービス事業」 14 時 10 分～

パネルディスカッション

「岩手県のパーソナル・サポート・サービス事業報告とこれからの取り組み」 15 時 10 分～  
(パネラー)

山口貴伸（これからの暮らし仕事支援室 室長）  
佐藤良子（いわて県南パーソナル・サポート・センター 副センター長）  
宮 昌隆（岩手県沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター復興推進課 課長）  
佐久山 久美子（盛岡市保健福祉部生活福祉課 主査兼社会福祉主事）  
吉田 直美（くらしのサポーターズ）

〈コメンテーター〉

吉田 拓野様 勝部 麗子様

〈コーディネーター〉

金野 馨（いわて県南パーソナル・サポート・センター センター長）

開会のことば…菅原 新治（奥州市商工会議所専務理事） 16時45分

## 第二部

モデル事業所交流会

グループセッション ホテルルイズ 会議室「パネルディスカッションを受けて」18時00分～

交流会 ホテルルイズ ラウンジ 19時00分～

閉会 20時45分

10月6日(土) 被災地バスツアー(岩手県北バス) 8時00分～16時00分

宮古、田老方面バスツアー

大船渡、陸前高田方面バスツアー

## IV 会場

第一部 アイーナ 804号室

第二部 ホテルルイズ 8階 ラ・フォンテーヌ

## V 参加者

第一部報告会参加者 約250名(うち全国P S 10地区34名)

第二部セッション・交流会参加者 70名

被災地バスツアー参加 44名(宮古方面17名 大船渡方面27名)

バスツアー業務用車伴走 5名(宮古方面2名 大船渡方面3名)

## VII 広告

岩手日報 広告 FMいわて ラジオ広告

岩手日報 取材

県政テレビ番組 取材(いわて希望の一步)

## VIII 総括・反省点

関係各機関のご理解、ご協力により目標参加人数250名を達成し、目的であった県内各機関の連携強化、パーソナル・サポート・サービスの県民への周知、情報発信をする機会を得た。

2012年10月

## 【これくら 全国事業報告会 事務局反省 議事録】

2012年10月17日(水) 於：これからのくらし仕事支援室事務所 15:00～16:30

出席者 山口、岩城、花坂、菊池、安原、高橋 宮地

記録 高橋

(以下、挙がった事項)

1. 出席者レジメ残部から241人受付なしが20数人いた模様(袋の残部からは271?)。目標はほぼ達成。広報は、チラシ、投げ込み、岩手日報、FM放送、6団体の会議で情報提供した。
2. 何回か県南との打合せをしたが、同じ話の繰り返しになった。準備時間がもう少し欲しかった。
3. もう少し綿密な計画を立ててやりたい。
4. ホームページの掲載が8/20。年間計画の中でやればよかった。参加が少なかったところで、全国のPSにメールを送った。
5. 釧路の方々は、夜に参加しないまま京都に行かれた。どんなに日程を組んでも、日程のバッティングはある。
6. 皆さんがそれぞれ頑張っていた。
7. 準備不足はあった。完全に半分で「これくら」と「県南」でわけてやったほうがよかった(例：第一部はこれくら担当、第二部は県南担当 など)
8. 新聞広告は、電話ももらって効果があった。盛岡市やマシェリも使うと、効果があるかもしれない。
9. 名簿が集まってから開催までの時間がなかった。相談業務をしながらの仕事でどこかにひずみが来た。
10. 役割分担をもっと明確にふると分かりやすい。
11. 住所と連絡先も、名簿の中では必要だった。
12. 会場案内係として、盛岡駅の北と南に立った。南側は、釜石から来た人にしか会わなかった。北側は多かった。
13. 会場案内係は何時まで立つか?で直前に問題になった。
14. 年間計画の中に組み入れて、年度初めから少しずつ進めて行けばよかった。
15. (発言者本人が) 実際打合せに入ったのは最後の方で、何もわからない状態だった。
16. みんなが全国大会を分担してやった方が良い。分からないことが多かった。全員で意識統一しないと難しいと思った。
17. 事例を出しているが、紙に残す場合は個人が特定できないように具体的な名前は出さない方が良い。(例：「中央病院」などの具体的な病院名が出ていた。) オープン・クローズに関わらず、本人には了承をとって事例は出すべき。厳しい所は配布する紙にナンバリングをして回収している。
18. 精神保健福祉センターの事例検討会でも「N市」、「A市」という表現である。

19. 「本人から了解は取っています。」ということ、事例発表前に全体に言った方が聞く方も安心である。
20. パネルディスカッションの時間が短い。金野さんのコメントでも「ディスカッション出来なかった。」と言っていた。せつかくの事業報告会なので、時間をとって「これくら」「県南」の紹介、アピールが出来てもよかった。
21. クローズドセッションのやり方はよかったが、受付をやっている人とファシリテーターでテーブルに入る人がかぶってしまって、スタートが遅れるテーブルがあった。全体の進行がスタートしても、そのテーブルだけは静かだった（おそらく F グループ）。
22. 受付でお金が合わずに、グループワークのスタートと同時に入れなかった。
23. クローズドセッションのグループワークは、案外大変でもなかった。みなさん、よく話してくれた。
24. よその地域の報告会に参加した時、事務所を見る機会はあったか？多少、事務所を披露してもよかった。
25. 京都ではその場で旅費の精算もやっていた。京都では 20 人くらいで受付していたか？
26. オプション以外でも 2.5 日は日程が欲しい。豊中でも 3 日だった。
27. 「これくら」の被災地ツアーでも花巻空港に寄ればよかった。もしかしたら、参加者が増えたかもしれない。
28. タイミング的に、一本松の話題が大きかった。
29. 県南と全然交流がない中でもやれたので、これはこれでよかった。
30. パーソナルサポート講座と全国事業報告会との二重進行は、大変だった。
31. 関西の人の参加も多かった。
32. アンケートは、PS だけでも（クローズドセッション参加者だけでも）とればよかった。
33. 参加者を追っかけてアンケートをとってもいいが、日時がたつとクレームしか来ない。
34. 最初からアンケートの事は考えるべきだった。
35. イベントをやる時は、基本的にアンケートをとるという考えでよい。次回に生かす。
36. パンフレットの時間とタイムスケジュールの時間が 5 分ずれていた。タイムキーパーとして残り時間を出すタイミングを迷った（パンフレットを出した方が先だった）。

岩手日報  
 H24.9.20(土) 朝刊  
 (パワゲティ)

生活再建支援  
 事業者の報告会  
 被災地の復興  
 被災者の生活再建支援  
 被災者の生活再建支援  
 被災者の生活再建支援

「東日本大震災への対応  
 および生活再建支援  
 をめぐる取り組みを中心として」  
 12月30日(土) 13:30-16:45  
 参加無料  
 会場：いわて県民情報交流センター アイーナ

**暮らしと仕事支援サービス事業報告会**

**10月5日**  
 12:30 - 16:45

**参加無料**

**会場：いわて県民情報交流センター アイーナ**  
 〒981-8511 岩手県盛岡市大町1-1-1

**プログラム**

**13:30 開会**

**14:00 生活再建支援サービス事業報告会**  
 「豊中社協の」パーソナル・サポート・サービス事業と被災者への支援  
 豊中社協 代表取締役 藤部 直子氏

**15:00 パネルディスカッション**  
 生活再建支援サービス事業と被災者への支援

**16:45 終了**

※参加をご希望の方は、あらかじめお申し込みをお願いします。  
 但し、お席が空席だった場合でも、定員までお申し込みいただけます。

**パーソナル・サポート・サービスとは?**

様々な困難を抱えている方に個別的、継続的、制度外的に提供される任意型の生活再建支援サービスです。  
 困っているあなたに寄り添い、一緒に困難を解決いたします。

**パーソナル・サポーター**

**自立・就職・生活安定へ!**

※お申し込み・お問い合わせは  
**「これからの暮らし仕事支援室」**  
 までお願いいたします。

**これからの暮らし仕事支援室**  
 〒981-0224 岩手県盛岡市大町1-1-1  
 TEL.019-626-1215 FAX.019-626-1545  
<http://korekura.jp/>

H24.9.24(月)岩手日報(朝刊) 岩手県パーソナルサポートサービス事業報告会